

TAVI100 例に達しました。一四国唯一！

TAVI 実施責任者 入江 博之
(近森病院副院長・心臓血管外科主任部長)



四国唯一の達成

カテーテルで行う大動脈弁置換術（TAVI）を当院で開始したのは、2014年12月11日でした。2015年は40例、2016年は47例と徐々に症例が増えてきました。そして、ようやく2017年3月23日に合計100例に到達することができました。現時点で、四国で100例を経験した唯一の施設であります。また、伝聞の話を総合すると全国で15施設目くらいになるとのことです。

TAVI 治療は、高齢や全身状態の問題で胸を開いて行う通常の大動脈弁置換術の危険度が高いと考えられる人に行う手術です。当院のデータを見ても予測死亡率が平均5.5%と危険度の高い方ばかりでした

（通常の開胸手術は約1%）。幸い、手術死亡および在院死亡はありませんでした。しかしながら、術後に緊急開胸手術を必要としたり、あるいは脳梗塞を起こした症例もありました。こういった合併症は残念ながら世界的にもある一定の確率で発生しております。それでも患者さん自身の頑張り等にも助けられ、多くの方がこの合併症を乗り越えてこられました。

ハートチームで検討、施術

このTAVIを行ってきたチームメンバーは各方面にまたがります。循環器内科、放射線科、麻酔科、心臓血管外科の医師たちをはじめ、手術室・カテ室の看護師、また臨床工学技士、放射

線技師、臨床検査技師に加え、様々な物品を準備してくれた業者の方々の積極的な関与なしには、施行することができませんでした。元々、当院では大動脈弁置換術の手術死亡率は極めて低かったのですが、患者さんによっては、侵襲度の少ないTAVIが好ましい治療となる場合があります。患者さん自身の選択のほか、術前に心エコー検査、3D-CT、冠動脈造影などのデータを集め、上述のハートチームメンバーで検討し、TAVIが適切と判断された方のみを行いました。

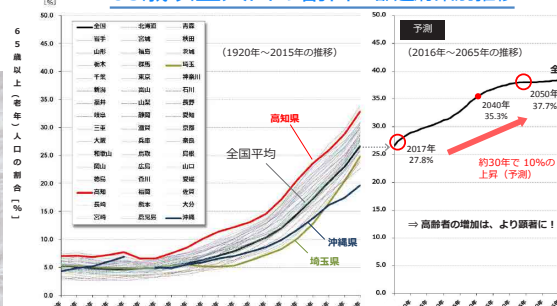
高齢化社会に向けて

日本はもとより、特に高知県は高齢化していきます。従来の開胸手術よりもTAVIの方が適切で、それによって日常生活に困難を感じることなく、また心不全に陥ることなく日常を送るようなお手伝いをしていきたいと考えております。

TAVI 外来は毎週月曜日に循環器内科と心臓血管外科で行っております。電話にてご予約ください。

いりえ ひろゆき

65歳以上人口の割合 都道府県別推移





うつ病のリワークと新型うつ病について

近森病院総合心療センター

副センター長 宮崎 洋一

30年前うつ病は治りやすい心の病気の代表で、実際、再発はあるものの数カ月で改善し仕事に戻っていました。しかし、バブルがはじけてから職場の敷居が高くなり、復職してもすぐにつぶれてしまうケースも増えてきました。そのため、復職のためには今までより回復レベルを上げる必要性を痛感し、働き盛りのうつ病の方の就労支援を目的とするリハビリデイケア「パティオ」を平成14年に開設しました。

今でこそリワークという言葉もでき、うつ病のリハビリも一般的になりましたが、当初はいろいろ苦労も多く開設5年目頃からやっと軌道に乗り、現在は昔ながらのうつ病の方はほとんど復職できるようになりました。

ところが昨今の若い方のうつはほとんど俗に言う「新型うつ病」です。一見すると軽症ではあるもののリストカットや過量服薬等の行動化が多く、

薬物療法も精神療法も効果が乏しく更にリハビリにも乗りにくいいため苦労しています。

新型うつ病の方の治療と就労支援に関しては、神経科学の進歩にも関わらずまだまだ道遠しというところです。「病気が治る」というよりも「病気といかに上手につきあうか」という治療モデルで係った方が上手くいく場合が多いのですが、長い期間かかることがほとんどで、どのように効率的にリハビリを進めていけるのかが大きな課題です。

みやざき よういち

看護部

キラリと光る看護

5月の歳時記

ルピナス

危機管理室

室長補佐 溝渕 克郎

若いころは花には興味はありませんでしたが、休日に母親を連れて郊外の農園等に行くようになり、最近は花を観賞するようになりました。このルピナスは5月に高知市の農園で沢山咲いていました。その青空に向かって真っ直ぐに伸びている姿に感動して、現在自宅で育てています。花言葉の代表的な言葉は「いつも幸せ」、和名はのぼりふじ(昇り藤)と言います。ルピナスとは、明治時代に日本に伝わった花で、ルピナスを食べると血行がよくなるため、薬草や石鹸などにも使われていました。属名のLupinusの語源は、ラテン語で「狼」を意味して、荒地であっても狼のようにたくましく育つことができるという語源のようです。



みぞぶち かつろう



目標に向かって

少しずつ進んでいく

患者さんを支える



近森リハビリテーション病院

外来看護師 田所 明美

「体調はどうですか？」外来診察前のあいさつから看護が始まります。「住み慣れたところでその人らしく安心して生活できるように」退院後の生活を支えることが近森リハビリテーション病院の外来看護師の役割です。医師・セラピスト・看護師・ソーシャルワーカーなど多職種でリハビリプログラムを立て、患者さんのリハビリや生活を支える支援を行っています。

リハビリ外来での看護を始めて9年目。始めは、ボディイメージの低下やADL（日常生活動作）・IADL（手段的日常生活動作）の低下による役割喪失など、生活で患者さんが困っていることや抱える思いの想像もつかず、話を聞くことで精一杯の毎日でした。9年が経過した今は、診察前に関われる短い時間を有効に活用し、生活だけではなく目標や取り組んでいるリハビリの内容も把握することで、患者さん・ご



家族との関わりができるようになってきました。

会話をした内容をどのようにリハビリに活かしていくか、患者さん・ご家族と医師・セラピストなどスタッフをつなぎ、リハビリに活かしていくことが外来看護師の役割と思い、日々の関わりを続けています。

回復期リハ病棟へ入院中のように短期間での機能向上ではありませんが、目標に向かって少しずつ進んでいく患者さんをこれからも支えていきたいと思っています。

たどころ あけみ

細木病院との医療連携

転院前の調整訪問について

近森病院地域医療連携センター センター長 市川 博源
近森病院消化器内科部長

2025 年に向けて各地域における病床の機能分化・連携を進めるための地域医療構想が話題になっています。

近森病院でもさまざまな医療機関とともに病床の機能分化・連携を進める活動を日々行っています。その中でも

細木病院は当院からの転院患者数が一番多く、以前から密な連携をとらせていただいている医療機関の一つです。その細木病院との新しい取り組みとして、細木病院の白神実医師、山中伸悟医師、地域連携推進センターの永野看護師長が、当院に転院前訪問に来て頂けるようになりました。毎週月曜日の午後、細木病院へ転院相談中の患者さんやご家族と面会していただき転院調整を行っております。以前までは紹介状と

▼向かって左から筆者、細木病院地域連携推進センターの永野看護師長、白神実医師、山中伸悟医師



電話での相談が中心でしたが、実際に患者さんを見て頂くことで患者さんのイメージが深まり、転院までの問題点、調整点をより理解しあえていると感じています。患者さんご家族にも転院先の情報を知る機会にもなり、スムーズでより丁寧な退院調整ができるようになりました。今後、このような取り組みを含め患者さんに役立つ新しい形の医療連携を拡げて行きたいと思っています。

いちかわ ひろもと



クリニカルパス大会「糖尿病教育入院のパス」

2017 年 3 月 27 日

糖尿病教育に 入院は必ず必要か

近森病院 糖尿病・内分泌代謝内科
リウマチ・膠原病内科部長 公文 義雄



糖尿病の治療の基本は食事と運動であり、治療戦略にはチーム医療が有効で効率的である。患者に“変わってもらう”には「教育」が必要であるが、入院でなければ不可能なのか？

当院では患者のニーズにあった3日間の糖尿病教育入院パスが以前から使用されていたが、今回スタッフが改訂した。当院の糖尿病センターでは専門職のスタッフが日々教育に尽力してい



るが、パスでは「外来で可能なことは外来で、入院の方が良いことのみ入院で教育する」ことにしている。即ち、外来で始め、入院を経て外来で閉じる、新しく珍しいパスである。これなら連携施設の先生方にもご利用頂ける。

使い勝手は如何か、皆様のご意見を頂き、ご協力を持ってご利用をお願いしたい。

くもん よしたか

！踊り子募集！ 2017 年よさこいチーム「ちかもり」

「第 64 回よさこい祭り」の夏がくる。有志が力をあわせてよさこい踊りをつくります。一緒に Kochi の夏を踊りつくしましょう！！

祝！
8 回連続
出場



● 応募資格 ●

近森会グループ職員、職員家族、近森病院附属看護学校学生、関連会社職員 ※ 5 月初旬から募集を開始します。

American College of Cardiology 2017 (ACC17) ポスター発表を経て

近森病院初期研修医 2 年目（出張当時）
（現高知大学医学部附属病院老年病科）
伊藤 いづみ



3月16～21日、ACC17参加のためWashington D.C.に行ってきました。Fellow in Training (FIT) という卒後10年目までの区分で採択され、ポスター発表をしました。心臓原発悪性リンパ腫の症例提示を元に、近年、心臓原発悪性腫瘍の頻度が従来考えられていたよりも多いと報告されたことを背景に、悪性リンパ腫は他の心臓原発悪性腫瘍と比較し化学療法が劇的に効くため、早期診断・治療開始が重要であることを強調した内容です。

私は英語がほぼ話せないので質問がきたらどうしようかと思っていましたが、貼り逃げせずにポスター前にいたにもかかわらず質問されることはありませんでした。また企業のブースを覗いても、他の人と比べ声をかけられませんでした。今回日本人の参加は非常に少なく、他の人がどうかかわりませんが、どうも日本人は英語が苦手だから話しかけてもしょうがないという雰囲気もあるように感じました。実際私も自ら話しかけることはできず、最低限の会話をするのみでした。しかし今回、いろんな国の若手医師達が英語で違和感なくやりとりしているのを見て、そこに積極的に入っていけない自分が情けなく、寂しくもあり、次回参加のチャンスが来るまでに英語を少しでも話せるようになろうと固く決心したのでした。

実は今回、指導頂いた先生（英語が話せる）が残念ながら急遽不参加となったのですが、それにより英語の必要性を身を以て体感することができ、結果として良い経験をすることができました。



最終日午後は観光し、特にナショナル・ギャラリーではモネやゴッホの作品を観ることができ、一生の思い出となりました。

いとう いづみ



～近森病院での半年間の研修を経て～ 内科医として貴重な経験に

大阪府済生会泉尾病院
循環器内科 末吉 裕幸



11月からの半年間、近森病院の内科、循環器内科で働かせて頂きました。元々は大阪の病院に勤めていましたが、生まれてこの方ずっと大阪で県外で暮らすこと自体が初めての経験でした。近森病院に来た時は病院の規模に圧倒されて、自分はやっていけるのかと不安がかなり強かったことを覚えています。

近森病院に来たまず一番の目的は、急性心筋梗塞をはじめとする心臓救急を学ぶ事でした。ハートセンターがあり症例数も非常に多いため、実際に多いときは朝から晩まで次々と緊急カテーテルに呼ばれることもあり、ドブプリと勉強させて頂きました。また近森病院は大内科制度で専門科以外の患者さんを持つことも多く、内科医としてはその経験が非常に貴重なものとなりました。

ERでの初療対応に始まりカテ室での治療、集中ケア病棟での集中管理、一般病棟へ移ってから退院までの間、看護師、栄養士、リハビリスタッフなど多くの職種が一つのチームとして、最善の医療を提供するように機能していて、このチーム力が近森病院の素晴らしい所の一つだと思います。医師はそのチームの中心ですが、自分は周りのスタッフの方々にたくさん助けて頂き、改めてチーム医療の大切さを実感しました。

この半年間色々な方と飲みにも行かせて頂きましたが、高知はご飯もお酒も美味しくて、減り気味だった体重も気が付けば、以前より増えて帰ることとなりました。そして何より高知で出会えた人とのご縁が自分の人生の財産になったと思います。高知を去ることは寂しいですが、学んだことをこれから生かしていこうと思っています。本当に有り難うございました。すえよし ひろゆき

本館受付前水槽 僕らはみんな生きている 7

ゴールデンアルジイーター



苔(アルジ)を食べる(イーター)ので、苔対策として飼う人も多いようだが、苔だけで満足するわけではない。苔は幼魚のときだけで、その後は見向きもしない。むしろ、肉食系の餌を好んで食べるし、縄張り意識が高いので、凶暴この上ない。しかも30cmにも成長するとなると、せいぜい60cm（これでも大きい方だろうが）ほどの個人所有の水槽だと、あまりにその存在が大きすぎる。とはいえ、このゴールドの魚体が動いては止まっているさまは、なかなか堂々としていて見ていると飽きない。（編集室）

看護師特定行為研修 修了式



重い責任～医療の質の向上をめざし～

看護師特定行為研修管理委員会 副委員長
近森病院 診療看護師 青柳 智和

近森病院は、中四国初の看護師特定行為研修指定機関として認可を受け、半年間の研修を行い、平成29年3月24日に1期生10名全員に修了証を授与いたしました。

「特定行為」自体は、研修終了後も学び続けていくものであり、研修の段階では基礎作りが重要と考え、時には

鬼と言われようとも厳しく接しました。患者さんの状態に合わせて特定行為をタイムリーに行うことで、スムーズな治療を支援することができます。その一方で、特定行為を実践することには責任も伴ってきます。修了者の皆さんには、命を預かるプロフェッショナルとして特定行為を実践

するための知識や技術を指導してきました。看護師の質の向上は医療の質の向上に直結すると私は考えています。近森会の目指す医療を支える人材育成に少しでも私たちが貢献できたのであれば幸いです。

あおやぎ ともかず



第一期生代表あいさつ「聴くことが大事」

看護師特定行為研修修了者
近森病院北館2階 看護師 川村 佳代

昨年10月、特定行為研修受講というチャンスに恵まれ、1日3時間のeラーニングと仕事、家庭での役割と、三重の生活が始まりました。320時間の共通科目が終えたかと思うとすぐに区分別科目が始まり、めまぐるしいスケジュールではありましたが、仲間にも恵まれた6か月でした。研修を通じ、私は今まで、患者さんの話を聞いてい

たつもりでしたが、考えて聴いていなかったかもしれないと感じています。医療面接（問診）と身体所見で8割は判断できると聞き、最初は半信半疑でしたが、実習において意識して「聴く」ことで患者さんの言葉や身体所見と検査所見が面白いように結びついていきました。特定行為は「行為」そのものではなくその「過程」が大事と何度も

指導を受けました。これからは、「聞く」のではなく、「聴く」ことで看護の幅を広げて行きます。私たち、特定行為研修を修了した看護師が関わることで患者さんやご家族のニーズに応えられれば幸いです。

かわむら かよ



平成28年度 近森病院看護師特定行為研修 修了式



第一報

開催日が決定しました
第7回心臓大血管
ウェットラボ

2017年11月12日（日）
近森病院管理棟3階

図書室便り 2017年3月受入分

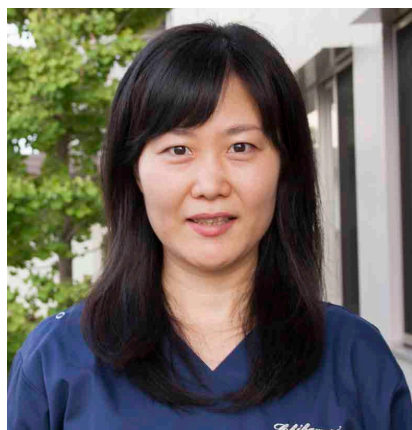
- 外傷登録 日本外傷データベース
外傷診療の標準化と質向上のために
／日本外傷学会トラウマレジストリー検討委員会（編）
- 診断モダリティとしての心筋病理／
心筋生検研究会（編）



乞！熱烈応援

よろしくお願いします

近森病院麻酔科 部長代理
池田 智子



4月より前任の麻酔科部長の後を少しだけ引き継ぐことになりました。どうぞよろしくお願い致します。

いけだ さとこ



患者さん、スタッフの為に

近森病院本館 7A 病棟
看護師長 上戸 理恵



自分のためにと目指した看護師。いつのまにか患者さんのために何ができるのかと悩み向き合うようになりました。が、自分一人では限界があり、周りのスタッフの力の大きさを痛感するようになりました。これからは患者さんだけでなく、周りのスタッフのためにできることも見つけていきたいと思っています。うえと りえ

次の 10 年に向けて

近森病院糖尿病・内分泌代謝内科 / リ
ウマチ・膠原病内科科長 吉田 剛



遠く離れた沖縄から、妻の実家のある高知へ赴く事となりました。まだ肌寒いものの、時折吹く風の温かさや出会う人の親しみやすさ、明るさは沖縄に似たものを感じます。卒後 10 年間、様々な人との出会いに導かれ、膠原病と神経内科の交差する分野を究めたいと思うに至りました。高知で迎える新たな 10 年の日々を、皆様と共に歩んで参りたいと存じます。よしだ たけし

感謝の気持ちを忘れずに

近森オルソリハビリテーション病院
3 階病棟看護師長 岡村 美紀



入職後よりたくさんの方々と出会い、様々な経験をさせて頂きました。オルソは 10 月で開院 10 年を迎えますが、更に飛躍していくよう、今まで学んだ事を活かし師長として日々前進していきたいと思っています。いつまでも感謝の気持ちを忘れずに、皆様の期待に添えるように努力していきたいと思っています。おかむら みき

生きがいを感じる職場に

近森病院北館 5、6 病棟
看護師長 竹崎 文女



北館 5.6 階病棟は 46 床の病床があり、内科一般と整形外科の混合病棟です。毎月 100 人前後の入院・転入患者さんを受け入れしている忙しい病棟ですが、多忙な日常業務の中でもスタッフ一人一人が今の仕事を生きがいと感じ、楽しく仕事ができるように風通しの良い人間関係を築いていきたいと思っていますので宜しくお願い致します。

たけざき あやめ

寄り添う看護

近森リハビリテーション病院
6 階病棟東主任 岩佐 和佳子



障害を持ちながら、その人らしい生活を送れるよう援助することがリハビリ看護で大切なことです。その為にスタッフは患者・家族の思いを傾聴し、他職種と連携しながら常に悩み考えています。患者だけでなくそんなスタッフへも寄り添い、患者が自立出来る喜びをともに分かち合えるよう努めてまいります。いわさ わかこ

乞！熱烈応援

一つひとつ丁寧に

診療支援部 企画課
主任 中澤 章子



企画課は、より良い病院運営のための多種多様な業務に携わる部署です。まだ把握できていない事も多く力不足を痛感する日々ですが、上司や同僚をはじめ、様々な立場や所属、職種のみなさんに支えられてのびのびと仕事ができ、感謝しております。今後も一つひとつ丁寧に努めてまいりますので、変わらぬご指導をお願いいたします。

なかざわ しょうこ

地域一を目指して！

高知ハビリテーリングセンター
児童支援部主任 明神 哲也



児童支援部主任として「キュール」で支援を行っていくこととなりました。開所5年目となるキュールですが、現状に満足せず、子どもたちには楽しい、保護者には安心していただける居場所づくりに努めていきます。

チームワークを大切に、期待にこたえられるよう頑張ります。

みょうじん てつや

明日やろうはバカやろう

障害者福祉サービスセンターウェブ
作業療法士主任 中越 太一



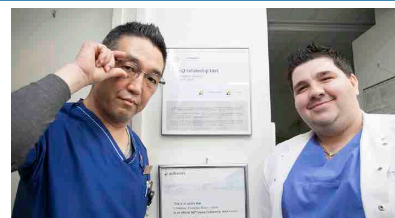
主任として私がまず取り組むことは①知る、②動く、③声を聞く、ことだと思っております。4月1日にOWNパスが開所、2018年には移転の予定もあり、時間は待ってられません。そのためにも「明日する」という後回しをせずに「今日」そして「今」を大切にしていきます。自由さと柔軟性を持って…。

なかごし たいち

AOtraum Fellowship（外傷に興味を持っている外科医のための留学研修制度）

ブルガリアから研修に来ました！

Radko Nedevski



ひろっぱ読者のみなさま、初めまして。私はラトゥコ＝ネデフスキ、31歳です。ブルガリアのプロブディフというところで整形外科医をやっているのですが、今回、AOtrauma Fellowshipという制度を利用し、近森病院の整形外科へ1か月間の研修にやってきました。

今まで日本を訪れたこともなく、日本の医療についての知識も皆無だったので、どうなるんだろうと当然のごとく不安に思っていました。しかし、研修初日、整形外科の医局に入るとすぐ、

私の心配は消え去りました。案内してくれる方やサポートしてくれる方、みなさん、ほんとうにあたたかく寛大で、順応するのに時間はかかりませんでした。そして、病院もとてもきれいに整備されており、英語がわからなくても、あっという間に慣れていきました。職員のみなさんが私を気遣ってくれ、必要なときは助けてくれました。また、手術室の設備、経験を積んでいる有能なチーム、そしてレベルの高い、この上ないサポート…、言葉にできないほど、本当に感動しました。

技を勉強できたことが素晴らしかったです。朝のカンファレンスや術後の患者管理等、どれも英語で行われ、英語力をつけるのにもとてもいい環境でした。衣笠統括部長を筆頭に、全てのドクターが完璧で、最新の医療技術を結集した手技を展開していると言ってもいいのではないのでしょうか。精巧で卓越した手技は、世界中でもトップレベルだと思います。

そして、歓迎会や懇親会では、楽しく時間を過ごしながら、ヨーロッパとは違う、日本の伝統や習慣といった文化に触れることもでき、とてもいい経験ができました。近森病院での研修のおかげで、たくさんの方々に出会い、私にとっては忘れられない経験となりました。（原文「英語」を翻訳しています）

整形外科はとても忙しく手術も多いので、毎日いろいろな手



新人医師



吉田 剛

よしだ たけし

①糖尿病・内分泌代謝内科／リウマチ・膠原病内科②鳥取市③鳥取大学④卒後11年目。沖縄で研修終了後、県内で勤務。趣味はジョギング、音楽鑑賞、空手初段です。

ふなき たかし

①循環器内科②京都市③高知大学④高知に来て10年目、すっかり高知が好きになりました。休日の温泉や、たまにバスケの試合に出るのが好きです。

ふじた たかこ

①循環器内科②広島県尾道市③高知大学④高知の海と豊かな自然が大好きです。初心と向上心を忘れず、一日一日を大切に過ごしていきたいです。

にしむら ゆうき

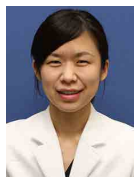
①循環器内科②兵庫県たつの市③高知大学④元気、やる気、ゆうき！がんばります。

もりもと ゆうこ

①神経内科②宮城県仙台市③筑波大学④昨年一年間東京へ研修に行かせて



舟木 孝志



富士田崇子



西村 祐希



森本 優子



井上 善紀



宗景 匡哉



津田 晋



木野 紘美



岡田 博

いただき、一年ぶりに近森病院に戻ってきました。

いのうえ よしのり

①心血管外科②奈良県大和高田市③奈良県立医科大学④奈良、岡山を経て高知に来ました。食いしん坊ですので高知の美味しいものをたくさん食べたいです。

むねかけ まさや

①外科②高知市③高知大学④卒後11年目、高知大学で勤務していました。よろしくお願いします。

つだ すすむ

①外科②南国市③高知大学④外科医2年生で昨年までは幡多けんみん病院で働いていました。よろしくお願いします。

きの ひろみ

①形成外科②三重県③福岡大学④三重、福岡、大阪を経て高知県にきました。趣味はドライブとお酒です。よろしくお願いします。

おかだ ひろし

①整形外科②静岡県浜松市③獨協医科大学④高知初上陸です。



戸田聡一郎

とだ そういちろう

①整形外科②岡山県③川崎医科大学④不慣れですが尽力いたします。



葺石 陽亮

ふきいし ようすけ

①泌尿器科②京都③高知大学④高知に再び戻ってきました。働いてから体重が右肩上がりに上昇中です。野球、テニス、自転車で体を動かす趣味を模索しています。

たかの ようへい

①麻酔科②岡山市③岡山大学④趣味は野球やサッカーなどのスポーツ観戦です。どうぞよろしくお願いします。



高野 洋平

専任教員



塩崎 直子

しおざき なおこ

①近森病院附属看護学校専任教員②北九州（宮崎）の高校卒業後高知で40年以上③高知大学大学院総合人間自然科学研究科農学専攻黒潮圏準専攻④スペイン語日常会話できます、困った時にはいつでも連絡ください。好きなことはスキー、スノボ、乗馬、シュノーケリングそして、俳句。

2017年●社会医療法人近森会 入社式



今年度より院長講話、医療安全委員会、災害対策委員会など講話者も一新されました



4月1、2日に、91名の新入職員を迎えて、入社式を行いました





初期研修医

前列左から（以下同じ）



いきたいです。



行元 志門 ゆきもと しもん ①初期研修医（1年目）②愛媛県西条市③高知大学④お酒を飲みに行くことが好きで、決して弱い方じゃないと言い聞かせていますが、高知県では全然ダメだそうです（笑）精一杯盛り上げるので誘って下さい。

植村 夏実 うえむら なつみ ①初期研修医（2年目）②四万十町③高知大学④ジャンル問わず、音楽を聴くのも演奏するのも好きです。いずれはマイ楽器を買って合奏したいです。よろしくお願いします。

前列 ●町田 彩佳 まちだ あやか ①初期研修医（1年目）②高知市③高知大学④大学からダイビングを始めました。今ではすっかり海の虜になっています。これからもさまざまな海に潜りたいです。

岸本 聡子 きしもと さとこ ①初期研修医（1年目）②土佐市③高知大学④運動と美味しいご飯を食べることが好きです。美味しいご飯を食べるだけでなく作れるようになりたいと思っています。

富田 優香 とみた ゆか ①初期研修医（1年目）②大阪府枚方市③高知大学④よくしゃべりよく笑いよく食べます！美味しい物を求めて遠出するのが好きです。早く上手に土佐弁を話せるようになりたいです。

小松 洵也 こまつ じゅんや ①初期研修医（1年目）②高知市③高知大学④大学までテニスをしていました。趣味は弾丸旅行、BBQ、野球観戦（カープ、高校野球）です。乗り物に乗るのが好きです。

今福 輝 いまふく ひかる ①初期研修医（1年目）②長崎県長崎市③九州大学④長崎県からやって参りました。高知については右も左もわからない状態です。インドア派ですができるだけ外に出て、言葉（方言等）にも慣れていきたいと思います。

後列 ●腰山 裕一 こしやま ゆういち ①初期研修医（1年目）②高知市③高知大学④高知に戻り丸5年。数多の飲み屋さんを制覇してきましたが、まだまだ飲み足りません！お付き合いいただければ幸いです。

鈴木 良和 すずき ふみや ①初期研修医（1年目）②京都府③関西医科大学④iPhoneを使って撮った風景の写真を加工することに最近ハマっています。高知県でもたくさん良い写真をとりたいと思います。

前田 将宏 まえだ まさひろ ①初期研修医（1年目）②兵庫県③高知大学④学生時代はサッカー部、軽音部、よさこいと色々な事に取り組んできました。研修医としても積極的に挑戦して

社会医療法人近森会 新人を迎えての懇親会

入社式のあと、多くの所属長らも参加し、懇親会が開かれました。



私の趣味

私と歌

近森病院北館 4 階病棟アテンダント 田中 寿美



「歌う」ということは、嬉しい時やリラックスした時に口ずさむ鼻歌、学舎での合唱、友人とのカラオケなど、誰しも身近にある楽しみの一つです。私は物心ついた頃から歌うことが大好きでした。中学生時代合唱部での活動をきっかけに高校音楽コースを経て音楽短期大学校（声楽専攻）を卒業しました。

そして今クラシック愛好家のコンサート、保健センターでの高齢者の集い、こども園のミニコンサートなどの舞台上で歌わせていただいています。こちらが楽しみを提供する立場なのに、高齢者の方々の表情の動きや笑顔、子供達の身振り手振りや歓喜など



こちらが随分癒されて、充実感を得ています。

練習は趣味の領域を超えた厳しさはありますが、舞台では他で味わえない感動や高揚感があり、それが練習の継続に繋がっています。これからも時間の許す限り皆さまの傍で歌わせていただきたいと思います。

たなか すみ

ハッスル研修医

わからないがわかるように



研修医 横田 真二郎

小学の2年生からサッカーをしており、学生時代の思い出はサッカーのことしかないサッカー馬鹿でした。病院内でもサッカー関連のことで話しかけていただけることがあり、サッカーをしていてよかったと再度実感しております。

そんな私も入職して、早くも1年が経ちました。1年前を思い返してみるとわからないことが多すぎて、「わからないことがわからない」ような状態でした。色々な方に多大なるご迷惑をおかけしたことと思います。申し訳ありません。

そんな未熟な私でしたが、熱心に指導してくださる指導医の先生や優秀なメディカルスタッフの方々のおかげで、「わからないことがわかる」ようにはなりました。

まだ、これから1年ありますので、わからないことをしっかり勉強して、解決していきたいと思っています。

よこた しんじろう

ワイン講座 ● 52

ぶどう品種を知り、個性を探る
白ぶどう その30 ポルトガル篇

マデ이라ワイン マルヴァジア種

バーベイト社が、日本での飲料用のマデ이라ワインとして開発した高品質マデ이라ワイン「エイジ・ド・ヴァラエタル・マデ이라ワイン」は本格製法により造られた高品質の飲料用のマデ이라ワインです。

マデ이라島で収穫される葡萄の80%がティンタ・ネグラ種（黒葡萄）ですが、バーベイトは収穫量の少ない4種の高貴品種（白葡萄）だけを使い、10年熟成のヴァラエタル・マデ이라ワインを造っています。甘口の品種からマルヴァジア、ブアル、ヴェルデーリョ、セルシアルの4品種をそれぞれ100%使い、本来の色、香り、味わいを取り戻すためにカラメルの使用を中止し、最新の醸造技術と最新

エイジ・ド・ヴァラエタル・マデ이라・マルヴァジア10年熟成／バーベイト／マデ이라島 ● 甘口タイプ。深い琥珀色。オレンジやレーズンの果実香にチョコレートやクリームタフィの香りが混ざり合い、ほのかな酸味に甘さが際立つ。余韻は10年熟成の中で最も長い。マデ이라ワインは開封後常温での保存が可能で、風味を損なうことなく最後の一滴まで美味しく楽しめます。

の設備から造られる、品種の個性を最大限に表現した素晴らしいマデ이라ワインを世に送り出しています。

発酵中にアルコール度数96%のグレイプスピリッツを添加して（添加のタイミングでワインの甘辛を調節）発酵を止め、カンテイロで5年の樽熟成後、最良のワインのみを選び更に5年以上熟成させます。年間生産量は1品種あたり僅か200ケース程度。

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）

近森会
保育室 そると

そると卒園式を3月25日に行いました。



リレー エッセイ

須崎のかくれ家

近森病院外来センター

形成外科看護師 市川 麻美



私は結婚して生まれ育った高知市内から須崎へ移住してあと少しで3年になります。結婚後は、出産・育児・仕事と忙しく毎日多忙な日々を送っていますが、少し宣伝といいますが…主人が、自営業で居酒屋を経営しており、調理もしています。題名通り、須崎の山のふもとに建物がある為『かくれ家』という名前で居酒屋を経営しています。

身内の私が言うのも何ですが料理は美味しく、店の雰囲気もおしゃれでくつろげる場所であり、老若男女問わずお客様に来ていただいています。交通の便利が悪い所にも関わらずお越し頂いているお客様・常連さんもいらっしゃり、帰り際には「美味しかったよ、また来るね。」と嬉しい言葉を頂いています。

先日、お店のメニューには載って

いませんが、よくお出しする「お漬け物」の中の「きゅうりのビール漬け」



を一緒に働いているスタッフへお裾分けさせて頂きました。皆さんからの



反響良く、「おいしい!」「作り方を教えて!」と言ってくださる方もいらっしゃり、レシピを教えさせていただきました。それぞれご家庭で作ったビール漬けを持って来てくださり、ビールによっては味の変化もあり楽しく昼食を囲まさせていただきました。

なかなか、高知市内から須崎の方へご飯を食べに来ることは少ないかと思いますが、旅行帰りや、思い出した時は、少し足を伸ばしてはいかがでしょうか?いつでもお待ちしております。

いちかわ あさみ

2017年3月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	19,995 人
新入院患者数	1,073 人
退院患者数	1,091 人

近森病院（急性期）

平均在院日数	14.58 日
地域医療支援病院紹介率	74.30 %
地域医療支援病院逆紹介率	166.62 %
救急車搬入件数	553 件
うち入院件数	293 件
手術件数	532 件
うち手術室実施	339 件
うち全身麻酔件数	201 件

● 2017年3月 県外出張件数 ●

件数 54 件 延べ人数 93 人

編集室通信

今年のゴールデンウィークはどのように過す予定でしょうか。今年の連休はゴールデンウィークのみだそうです。連休といえば、シルバーウィークもありますが、今年は3連休だそうです。暦上仕方ないですが、寂しいですね。数少ない連休を迎えますが、心身ともにリフレッシュできるよう良い休日をお過ごしください。 はましん

「ふだんの暮らし」を、意識したい

「主体的に動く」働き方の魅力

理数系が得意という単純な理由から、大学もその方面に進むと決めた高校2年の春。理系の大学を卒業してサラリーマンになるより、「自分に分かりやすい仕事のやり甲斐が欲しい」と、選んだ進学先が高知大学医学部だった。

5年生のとき、学外での研修制度が始まり、「民間で自由そうで、しかも症例の多そうな近森病院」での研修を希望。それがきっかけで、前期後期の研修医も経験し、この春から近森生活7年目に突入した。



研修中に病院スタッフの「いきいきとした働きぶり」や「やり甲斐をもって動いている感じが伝わってきた」という大川先生の感想は、月並みに聴こえるだろうか。「主体的に動くとはどういうことかを実習で実感できた」こと、それが卒業後の研修にも近森病院に来たかった理由だと強調された。

どちらかというとき控え目！

文教の町佐川のまちなかで育ち、3歳上の兄や近所の同年代と小学校低学年まで放課後には遊んでいた記憶がある。姉ではない、「兄」を持つ弟の宿命とでもいうのか、力の強い年長者が何を希望しているかをいつも考えていたような印象が残っているという。気兼ねとか気を遣うとかではないけれど、「人間関係ではそういった発想がいまでも根底にあるのかも知れない」と。

それが、今日の職場でも、自分の個性を前面に押し出すというより、「どちらかといえば控え目なタイプだと思う」というで自身の分析にも繋がっているようだ。

日本有数の 手稲溪仁会病院で胆膵研修

指導医は、消化器の胆管・膵管が専門の近森正康現院長だった。「内視鏡カメラの扱い方が不器用やなあ」と、正康先生にからかわれつつも、そのカメラでできる治療に感激し、そのうちには「やればやるだけ自分の腕が上がる。カメラは正直だと実感できる」ため、内視鏡検査がどんどん好きになったという。

一年半前の冬の3ヵ月、胆管・膵管検査と治療で日本有数の札幌にある手稲溪仁会病院への研修の機会を与えられた。ふだんの診療では見られないような悪性や難しい症例が多く、しかも「学問的なカンファレンスもいっぱい経験できた」。「将来の専門をこれにしたいと、とても早い段階で見つけられたのは、ツイテいる」。

とはいえ、ごく限られた臓器の治療に突き進むのではなく、「常に患者さんの全体像やふだんの暮らしを意識するように」と、諸先輩方にたしなめられるともいう。

そういった苦言を素直に受け止める姿勢が、自信過剰になることも抑え、成長を促す要因となっているのだろう。その謙虚さと集中力が、仕事にのめり込める倅な巡り合わせを引き寄せ、同時に周りには爽やかな印象を与えて



▲胆膵内視鏡の処置場面

いるようにも見える。

一方向への突進を止めるチーム医療

いまの仕事の喜びは、「処理がうまくできて緊急性の高かった患者さんが治ること」に尽きるようだが、チーム医療で様々な職種のスタッフと話し合える環境が、一方向ばかりへの突進のブレーキにもなっているようだ。

「専門は専門として掘り下げ、あくまでも全体を見渡せる医療者を目指したい」と、ひたむきな真剣さが頼もしい。

佐川町は移動1時間弱の、決して遠い古里ではないが、夜中や休日の呼び出しのある今の生活では、年に何回も帰れる場所ではなくなっている。「親父がボクと酒を呑むのを楽しみにしているので、もう少し余裕ができれば、ゆっくり呑みに帰ります!」。「当面のやりたいこと」をじっくり考えて、やっとこの答えが返ってきた(笑)。



▲今年の冬にUSJへ仲間で一泊旅行

職員対象 第68回
チカモリ・シネマクラブ



第3期生 43 名を迎えて

近森病院附属看護学校

専任教員 1 年生担任 黒岩 悦子



小川町公園の桜が満開に咲く 4 月 5 日、第 3 期生の入学式が盛大にとり行なわれました。入学式には近森会グループの皆様にご多数ご臨席頂きありがとうございました。

式では学校長の式辞の後、来賓の公益社団法人高知県看護協会専務理事の吉村様から励ましの言葉、近森病院院長近森正康先生始め岡本統括看護部長から歓迎の言葉をいただきました。

新入生代表からは『たくさんの選択肢の中から自分の自由な意思で選んだ看護師になるというこの道に真剣に向き合い、常に目標を高く掲げる』と力強い宣誓が行われました。看護学生としての第一歩を踏み出した第 3 期生 43 名の顔は希望と決意に満ち溢れキラキラと輝いて見えました。

式当日の天気は朝からうす曇で雨が

心配されていたのですが毎年恒例となった近森病院屋上からのバルーンリリースの時間になると青空がのぞき始め『リリース』の掛け声と共に一斉に放たれた赤、白、ピンクの風船は大きな輪になったあと一つの塊となって高く上っていき、3 期生のこれからの未来を示しているようでした。また、今年は初めての試みとして近森研修棟 8 階に中継施設を設けバルーンリリースの様子をご家族に見て頂き好評を得ました。

3 期生にはこれからはじまる 3 年間の生活を通し、近森病院附属看護学校としての誇りと自覚、そして看護ばかりではなく、人間性や教養等、自分の目標を立て色々なことに興味・関心をもち挑戦してほしいと思います。近森病院附属看護学校で出会った新しい友

人、これから出会う人々、たくさんの経験は一生の財産となることでしょう。

今年度は開校 3 年目となり全学年がそろった完成年度です。学生数は 120 名を越えました。在校生も 3 期生の入学を心待ちにしていたこともあり Freedom・Flexibility の校風のもと歴史を作って盛り上げていこうと学校全体が活気に満ちています。

今後も臨床経験豊かな講師の先生方と恵まれた教育設備の中、3 期生がこの学校で学んで良かったと思えるよう、教職員一丸となって看護教育に取り組んでまいりますので今後とも皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

くろいわ えつこ



▲来賓 左より近森病院近森院長、岡本統括看護部長、高知県看護協会吉村専務理事よりお言葉をいただきました。

